



医歯薬学研究部だより

徳島大学大学院 医歯薬学研究部

Tokushima University
Graduate School of Biomedical Sciences



大学のガバナンス改革の一環として、2017年4月から教育、研究、教員の組織分離が行われ、蔵本地区と常三島地区にひとつずつ、人事と研究を所掌する教員組織が誕生することになりました。蔵本地区の研究部の名称は今までどおり「大学院医歯薬学研究部」で変更はありませんが、人事と研究を実質的に所掌する研究部に発展したわけです。

すでに蔵本地区では医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の生命科学系3学部5大学院教育部を統合した研究部が設置されており、2004年から13年の歴史を刻んで来た経緯がありますが、今までの研究部は基本的にバーチャル組織であり、実質的な人事や研究推進の業務はそれぞれの3学部が担当していました。しかし、今回の改革により、研究部は教員人事を所掌し、さらには研究を推進する実質的な研究部組織になったと言えます。

2015年4月に「大学院医歯薬学研究部」に名称変更し、分野の部門配置も医科学部門（5系41分野）、口腔科学部門（3系26分野）、薬科学部門（4系20分野）、栄養科学部門（1系8分野）、保健科学部門（3系24分野）にまとめ、組織を一新したばかりでの変更ですが、今回の変更を良い機会と捉え、学部のアイデンティティを生かしながらも、統合と融合が目に見えるパワーアップした研究部に育てたいと思います。

徳島大学は研究大学としての位置づけを明確にしていますので、名実ともに本研究部が中心的研究・教育組織になる必要があります。本研究部の発足以降、教育においては、積極的に研究者交流や共同研究を推進し、特に教育クラスターによる研究者の交流やリトリート、共同でのシンポジウム、市民公開講座の開催などを進めてきました。研究面では、研究部内の各分野の連携のみでなく、異領域連携、基礎研究部門と病院を中心とした応用研究部門の橋渡し研究による連携、そして外国を含めた学外の先端的研究施設との連携などを推進してきました。しかし、まだまだ統合と融合は道半ばであると考えます。昨年11月に開催した大学院医歯薬学研究部のアドバイザー・ボードの外部評価委員会でも、外部評価者からこれらの取り組みをさらに拡大し、真に意義のある研究部とするようにアドバイスをいただいたところです。このような厳しくもあり、かつ温かい学内外の評価と期待を踏まえて、生命科学の目的をしっかりと見据えて、プロフェッショナル集団として、有意義な成果を適正に世界に発信していく組織にしたいと思います。

最後になりましたが、2017年3月にこの新しい研究部の舵取りを担う研究部長の選考があり、私が再任されました。再任ではありますが、新しい研究部の第1番目の研究部長となりますので、改めて身が引き締まる思いです。2年の任期ですが、皆様方のご支援とご理解を得て、新しい医歯薬学研究部の組織作りを開始させていただきたいと思っています。引き続きよろしくお願ひします。

巻頭言

新しい研究部への移行と研究部長再任のご挨拶

大学院医歯薬学研究部長

苛原 稔

Vol. 5

2017年4月1日

- 1 巻頭言(研究部長再任挨拶)
大学院医歯薬学研究部長 苛原 稔
- 2 副研究部長就任挨拶
医科学教育部長 丹黒 章
口腔科学教育部長 河野 文昭
薬科学教育部長 佐野 茂樹
栄養生命科学教育部長 高橋 章
保健科学教育部長 雄西智恵美
- 4 徳島大学大学院医歯薬学研究部
アドバイザー・ボード報告
大学院医歯薬学研究部長 苛原 稔
- 6 旬の研究紹介
徳島大学発の学術系
クラウドファンディング実施進捗報告
創薬生命工学分野 教授 伊藤 孝司
- 7 旬の研究紹介
保健学系(看護技術学)
RN; PhD, FAAN, Professor of Nursing,
Graduate School of Biomedical Sciences
Rozzano C. Locsin
- 8 総合研究支援センターニュース
バイオイメージング研究部門 准教授 丸山 将浩
- 9 医療教育開発センターニュース
- 10 AWAサポートセンターニュース
徳島大学AWAサポートセンター長 葉久 真理
- 11 「蔵本地区国際交流のタベ」開催報告
医学部 国際コーディネーター 村澤 普恵
- 12 大学院医歯薬学研究部市民公開講座
開催報告
分子医化学分野 教授 野間 隆文
- 学会情報
- 13 新任教授ご挨拶
食品機能学分野 教授 河合 慶親
微生物病原学分野 教授 野間口 雅子
地域消化器・総合内科学分野 特任教授 佐藤 康史
組織再生制御学分野 教授 山本 朗仁
脊椎関節機能再建外科学分野 特任教授 長町 顕弘
- 退職教授等一覧
- 14 学会賞等受賞者紹介
編集後記

副研究部長就任挨拶



副研究部長【医科学教育部長】

丹黒 章

平成29年4月から医歯薬学研究部副研究部長ならびに医科学教育部長を担当させていただきます。

平成16年の国立大学法人徳島大学へと改組直後、蔵本キャンパスにある大学院、医学、栄養学、歯学、

薬学研究科を統合、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部（平成28年からは医歯薬学研究部に改称）が設立され、生命科学教育・研究を行う統合大学院としてスタートしました。

国立大学第3期中期計画による「徳島大学改革プラン」に沿った組織改革が進んでおり、徳島大学でも教育組織、研究組織、教員組織を分離することが決まり、平成29年度からは教員組織として、医学域、保健学域、歯学域、薬学域の4教員

会議を統合する医歯薬学研究部となります。

教育においては有効な人材活用を目指した組織横断的な、施設共用、共通講義の推進、多種連携教育が進むこととなります。徳島大学蔵本キャンパスでは研究部発足以来12年間培ってきた連携をより密にして、苛原研究部長のリーダーシップのもと、より積極的な改革を推進していきたいと思っております。研究分野でも、研究部横断的な、また、先端酵素学研究所や理工学部、生物資源産業学部との連携による研究クラスター形成により、先進的な研究を推進していきたいと思っております。医学部医学科は平成30年に予定している国際認証受審の準備を進めています。また、JICAとともにモンゴル国立医科大学の附属病院建設に伴う人材育成への支援を開始する予定です。ご支援のほどよろしくお願い致します。



副研究部長【口腔科学教育部長】

河野 文昭

平成29年4月から前期2年に引き続き医歯薬学研究部副研究部長を担当させていただきますことになりました。

昨年度の教・研・教の組織改革で、今までの研究部と各部局の教授会の在り方が大きく変わりました。また、新たに4月から技術支援部が発足しました。さらに大学院

改革が進行中で、これからも組織改革が求められています。

4月からの研究部教授会は、代議員制で今までのように教授全員が集まることはなくなりますが、研究部所属の教員人事、研究部に配分される予算など重要な案件が審議されるようになります。各部局に配分される予算が大幅に削減されることから、今までの研究部の事業が進められなくなる懸念されま

す。特に教育関係では、蔵本キャンパス全体の多職種協働、プロフェッショナルリズム教育やリトリートなどが挙げられます。時代の要望もあり、今まで行ってきた実績ある教育プロジェクトですので、是非とも継続、発展させる必要があります。

昨年度は、徳島大学として第2期中期目標・中期計画期間の自己評価と新たな目標の策定の年になり、「世界ランキング100位以内の大学をめざす」との方針が大学改革プランで示され、これに邁進することが決まりました。徳島大学の現状、蔵本キャンパスの各部局の置かれている状況を理解し、研究部の教員が一致団結し対応することが必要と考えます。

徳島大学が更に発展するよう医歯薬学研究部長を補佐して、一生懸命頑張る所存ですので、ご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。



副研究部長【薬科学教育部長】

佐野 茂樹

平成29年4月1日より、医歯薬学研究部副研究部長ならびに薬科学教育部長を担当させていただきますこととなりました。新たな体制でスタートする新生医歯薬学研究部のさらなる発展のため、微力ながら粉骨碎

身努力いたす所存です。

昨年4月より第3期中期目標・中期計画期間が始まり、徳島大学においては大学院組織の再編が全学的に進められ、医歯薬学研究部の果たすべき役割はますます大きく、重要になってまいりました。薬学部では、6年制学科（薬学科）と4年制学科（創製薬科学科）を併設した新しい教育制度が平成18年に始動してから11年が経過しましたが、今年度に実施されます

入学者選抜より、これまでの両科一括募集から学科別募集へと大きく舵を切ります。それにとまない薬科学教育部におきましても、創製薬科学専攻ならびに薬学専攻の各専攻ごとに特色のあるカリキュラムを再構築し、教育研究活動の活性化に向けた取り組みを強力に推進することにより、広い視野と国際性を備えた創薬・製薬研究者ならびに高度な職能を有する指導的薬剤師、医療薬学研究者等の養成に努めなければなりません。蔵本地区の各教育部の先生方との広範かつ密接な連携のもと、「くすり」を基盤とした教育研究をより一層高度化し、多様な薬学関連領域にあって次世代を担う人材の育成を目指します。

皆様には今後ともなお一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



副研究部長【栄養生命科学教育部長】

高橋 章

平成 29 年 4 月より医歯薬学研究部副研究部長・栄養生命科学教育部長を担当させていただきます。栄養学科は、平成 26 年度より医科栄養学科に改組し、新しい教育カリキュラムを準備し充実した臨床教育実習体制を構築しています。次は、大学院改革を検討しています。なかでも、栄養学分野における臨床的研究と基礎的研究の融合を促進するための体制整備を行いたいと考えています。これまでは“日本で唯一の栄養学教育研究体制を持つ栄養学科”とうたってきましたが、これからは“世界で唯一の”または“アジアで唯一の”と言えるような体制を目指したいと考えています。

現在、栄養生命科学教育部には、前期（修士）課程および

後期（博士）課程とも定員を超える学生が入学しています。栄養生命科学教育部にとって大学院生、若手研究者は宝であり、大学院生や若手研究者の育成に一番の存在意義があると思っています。現在の日本の大学は厳しい競争原理、経費削減の圧力にさらされていますが、大学院生や若手研究者が活躍できる環境を提供できるように努めたいと考えています。

医歯薬学研究部のこれからの発展につながるように一所懸命頑張る所存ですので、ご指導・ご助言の程よろしくお願い申し上げます。



副研究部長【保健科学教育部長】

雄西智恵美

このたび、平成29・30年度の副研究部長（保健科学教育部長）を担当させていただくことになりました。急激な社会の変化のなか、大学を取り巻く環境が大きく変化し、教育改革が求められています。また、このような時代を見据えた組織運営の改革も大きな課題となっていますが、苛原研究部長のもと医歯薬学研究部の発展に力を尽くしていきたいと思えます。

保健科学教育部は、平成 18 年に修士課程が設置されて以来、多くの研究成果を発表すると共に、教育・研究者として、また医療のエキスパートとして社会に貢献できる人材を世に送り出してきました。医療の高度化、複雑化が加速するなかチーム医療がますます重要となっている昨今、保健科学教育部の独自性を、

研究を通して発信していくと共に、他の学問分野と連携、共同したグローバルな視点をもった研究の推進が求められています。徳島大学蔵本キャンパスは、医療系 3 学部 5 教育部と大学病院を有する多職種にわたる医療人と教育・研究者を育成する恵まれた教育環境であり、この充実した教育・研究資源をフルに活用して更なる保健科学教育部の発展をめざします。

保健科学教育部には、生涯健康支援学領域（前期課程：看護学領域）、医用情報科学領域および医用検査学領域の 3 領域があり、研究に対するモチベーションの高い助産師や養護教諭、倫理観やクリティカルシンキング力の高い専門看護師や放射線治療専門診療放射線技師、医学物理士等の高度専門職業人の育成も強化し推進していきたいと考えています。

皆様のご支援、ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。